様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１６３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３８０７３９

研究課題名（和文）国民番号制度の有効性と社会的課題に関する学際的比較研究：日本と北欧諸国を中心に

研究課題名（英文）Social Effect and Social Risk of National Identity Number System:Comparative Studies between Japan and Nordic Countries

研究代表者
長井　偉訓（NAGAI, Yoritoshi）

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：５０２３７４９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：研究成果は、三点ある。第一に、マイナンバー制度の成立に伴う個人情報管理について、政府による監視やセンシティブデータに対する日本社会における意識をアンケート調査により明らかにした。センシティブデータとしてみなされる個人情報に関する法規制の課題を検討した。第二に、スウェーデンとノルウェーの個人識別番号の制度と運用に関してその現状を明らかにし、日本の制度との相違点につき検討した。北欧諸国は、それが社会インフラとして機能していることが特徴であり、現在は移民政策の関係で制度改正が検討されている。第三に、日本の共通番号制度の年金分野への活用方法を具体的に考察し、課題を明らかにし、将来の制度展望を示した。

研究成果の概要（英文）：The salient findings of the research are as follows: first, we illuminated how Japanese recognize personal information management after the government enforced “my number system”, through conducting questionnaire surveys on national surveillance and on the recognition of sensitive data. Second, the research clarified the differences between Japan and Nordic countries (Sweden and Norway) in terms of policy operations and social consequences of personal identification numbers. In Nordic countries, the systems of personal identification numbers permeate societies significantly as social infrastructure. However, the recent immigrant crisis affects the system and causes problems with its operation. Especially in Norway, the system is under revision to improve the quality of information and policy operations. Third, we explored the application of “my number system” to the pension system, and manifested the future vision of the systems in Japan.

研究分野：労働経済論

キーワード：マイナンバー　社会保障　個人情報保護　アイデンティティ

１．研究開始当初の背景

「共通番号制度」（マイナンバー制度）の施行によって、これまで各行政組織で別々に処理されていた各個人の情報を、「マイナンバー」と呼ばれる各個人に割りあてられた固有の番号のもとに統合的に管理することが可能となった。このマイナンバー制度では、省庁をまたがってマイナンバーによる個人情報の管理が統一的に行われることが予想される。この特性は電子化によって拡張され、不必要に広範囲な個人情報の共有やエラーの発生、その情報に基づく社会的選別、政府による監視の強化を可能にしてしまうことも考えられる。とはいえ、日本のマイナンバー制度のもたらす新たな社会的リスクについて評価をすることは容易ではない。

これに対して、北欧諸国ではすでに 50 年以上前から国民（個人）番号制度が確立され、それは広く、深く社会の中に浸透している。こうした北欧諸国における国民（個人）番号制度の実態や課題、その限界点に目を向け、その社会的課題をを理解することは、日本のマイナンバー制度の社会的リスクを評価する上で有用であると考えられる。実際、スウェーデンの個人番号制度では、番号エラーによって公的サービスが受けられなくなるケースも確認されており、個人番号が個人の社会生活に大きな影響を与えている。もちろん、北欧諸国の国民番号制度は、日本のマイナンバー制度とは異なるため、その国独自の社会・文化、政治的特性などの多様な要因が織りなす背景を鑑みた上で比較を行い、その制度の有効性や課題を理解する必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究では、日本と北欧諸国（主にスウェーデンとノルウェー）を比較することでマイナンバー制度の有効性やその社会的リスクについて検討することを目的とする。現在の日本の住民登録制度や北欧諸国での国民（個人）番号制度には、その成立のための独自の社会的背景や必要性が存在しているはずであり、その背景となる諸要素を考慮しながら、それら要素間の関係性を整理するとともにし、それぞれの国の特徴とそれに基づく有効性や課題について検討する。

３．研究の方法

研究方法としては主に文献研究、事例研究、インタビュー調査を行った。スウェーデンでのインタビュー調査では、国税庁 Skatteverket やデータ監査局（Datainspektionen）、ウプサラ地方行政府（Uppsala Kommun）、労働市場および教育政策評価機構（Institutet för arbetsmarknads- och utbildningspolitisk utvärdering、IFAU)などを訪れ、インタビュー調査を実施し、スウェーデンの番号制度の運用の実態を把握し、現状の問題点や現地での利用者の感覚や意識を理解することが可能となり、研究内容のブラッシュアップを図った。

４．研究成果

(1) 日本における個人情報管理、センシティブデータに対する意識

番号制度の運用とは、言い換えれば、政府による番号による国民に対する管理であるため、本研究の一環として日本社会におけるそれらに対する意識や知識について調査を行った。特に、エドワード・スノーデン氏による告発内容は政府による監視に関するものであり、そのような国家や政府による監視に対して日本人の意識が他国に比べて希薄であるという結果から、日本社会におけるリスクを考察した。

また、マイナンバーが社会保障や医療などに関する情報と結び付けられることに対する懸念は、それらがセンシティブデータ（機微情報）とみなされるのか否という感覚にも関係していることから、日本人にとってのセンシティブデータに対する感覚と、マイナンバー制度の導入に伴って改訂された個人情報保護法での規制内容についての比較した。それらの間には差異がみられたため、日本のでのセンシティブデータに関する法制度の有効性について検討している。

(2) 北欧諸国（スウェーデンならびにノルウェー）における個人識別番号の運用実態

北欧諸国においてはスウェーデンがノルウェーやデンマークに先駆けて全国規模での個人識別番号制度（Personnumer）を実施し、その制度をさまざまな公的サービスのみならず民間サービスにも活用してきた。国民の往来が頻繁な北欧各国は、それぞれの国の個人識別番号制度を他の北欧諸国のシステムと連携させている。そのため、税金、社会保障や医療制度など自国民が他の北欧諸国に移動した際の手続きや処理が効率的に行われている。一方で移民の流入が著しいスウェーデンでは、個人識別番号が不足する事態に陥っており、意図的に実際の生年月日とは異なる個人識別番号を発行し始めている。年金や社会保障が個人識別番号を基礎として構築されているため、年齢の誤認識による福祉サービスへの支障が懸念されている。北欧諸国独自の社会状況にも思われる一方で、人口の減少から移民政策の見直しも検討されている日本にとっても示唆に富むものであることを明らかにした。

ノルウェーは、国民向けに行政手続きの簡略化が行われるとともに、都市計画および社会サービスの長期計画に利用している。現在、個人識別番号を含む国民登録制度の見直しを進めており、時代に即した情報登録と、情報の質のコントロール、新たなシステム導入が模索されている。個人識別番号は、社会福祉サービス利用負担と切り離して運用されていることが特徴であり、日本でも個人番号

の社会福祉サービスの運用のあり方が改めて問われることを明らかにした。

(3)日欧における個人番号制度の現状

2017年2月に明治大学で行った科研研究会の場にて、本研究の総括として研究報告を行った（学会報告の1、2、3）。浅井は、スウェーデンの個人識別番号（通称 PIN: Personal Identity Number）について、１．社会状況変化と PIN の現在、２．自己認証の簡易化とその倫理的問題考察した。具体的には、近年の中東・アフリカ諸国からの難民流入による社会情勢の変化、PIN 運用に与える影響を事例をもとに報告した。さらに、デジタル・デバイスを用いた自己認証による公的手続きの効率化のメリットを指摘するとともにデジタル・デバイスを介した自己認証が孕むリスクを指摘した。鈴木は、日本のマイナンバー制度への社会保障利用抑制への危惧を問題意識として、ノルウェーを比較国として、ノルウェー国民登録制度と個人識別番号の歴史、概要、現状について考察し、日本における今後の課題を提示した。具体的には、ノルウェーの制度を踏まえ、マイナンバー制の目的を明確にすべく、生存権保障の視点から法的規制の必要性を日本への示唆とした。長井は、日本における社会保障と税の一体改革における「共通番号制度」の位置づけと導入の狙いに関する議論を整理した上で、スウェーデンにおける年金制度改革において個人識別番号（PIN）が具体的にどのように活用されているのかを具体的に考察した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 47 件）

1. 折戸洋子「草の根型医療情報化：意思オヨ非〝患者による口コミ情報の発信・共有と共感型コミュ ニティ形成」『日本情報経営学会誌』,37(2), 64-80, 2017, 査読有
2. 浅井亮子「テクノペアレンティング」,『日本情報経営学会誌』,37(2), 6-21,2017,査読無
3. 鈴木靜「ノルウェー・ベルゲン市—「世界記憶遺産」の活用—」,『平成28年度愛媛大学 公開講座世界の都市と地域』,4,26-31,2017, 査読無
4. 長井偉訓「「韓国政治と雇用システムの変化−若者の失業を中心に−」に関するコメント」,『愛媛法学会誌』, 42(3/4), 32-38, 2016, 査読無
5. Kiyoshi Murata, Yohko Orito, “Communication Ethics in Japan: A Sociocultural Perspective on Privacy in the Networked World” , in Goran, C. eds Ethics and Communication: Global Perspectives, 163-180, 2016, 査読有
6. 福田康典、村田潔、折戸洋子「センシティブデータとは何か:個人情報の適切な保護に向けて」,『日本情報経営学会第73回全国大会予稿集』, 167-170, 2016, 査読無
7. 浅井亮子、村田潔「無名社会:個人識別番号制度に関する日瑞比較研究」,『日本情報経営学会第73回全国大会予稿集』, 195-198, 2016, 査読無
8. 折戸洋子、崔英靖、村田潔「下からの医療情報化:医師および患者による口コミ情報の発信・共有と共感型コミュニティ形成」,『日本情報経営学会第72回全国大会予稿集』, 107-110, 2016, 査読無
9. 折戸洋子、青木理奈、村田潔「参加型監視環境の自己同一性への影響:「解離」現象を題材にして」,『経営情報学会誌』,24(4), 263- 270, 2016, 査読有
10. 長井偉訓「「学問の自由と大学の自治」に関するコメント」,『労務理論学会誌 雇用の大選別時代における人事労務管理』24, 123-129, 2015, 査読無
11. Kiyoshi Murata, Yasunori Fukuta, Yohko Orito, Andrew A. Adams, Ana Maria Lara Palma , “So What If the State is Monitoring Us? Snowden ‘s Revelations Have Little Social Impact in Japan”, SIGCAS Computers &Society,45(3), 361-368, 2015, 査読有
12. Andrew A. Adams, Kiyoshi Murata, Yasunori Fukuta, Yohko Orito, Ana Maria Lara Palma, “The View from the Gallery: International Comparison of Attitudes to Snowden ‘s Revelations about the NSA/ GCHQ”,SIGCAS Computers &Society, 45(3), 376- 383,2015, 査読有
13. Yohko Orito, Kiyoshi Murata, “Influence of the Social Networking Services- Derived Participatory Surveillance Environment over the Psychiatric State of Individuals”, Proceedings of Multidisciplinary Social Networks Research: Second International Conference, 541- 549, 2015, 査読有
14. 折戸洋子、青木理奈、村田潔「参加型監視環境の自己同一性への影響:『解離』現象を題材にして」,『経営情報学会2015年秋季全国発表大会予稿集』 Online paper, 2015, 査読無
15. Ryoko Asai, “Between Insanity and Love”, SIGCAS Computers &Society, 45(3), 154-158, 2015, 査読有
16. Ryoko Asai ,Iordanis Kavathatzopoulos, “Ethical Competence and Social Responsibility in Scientific Research Using ICT Tools”, SIGCAS Computers &Society, 45(3), 345- 347, 2015, 査読有
17. Iordanis Kavathatzopoulos, Ryoko Asai. “Judging the Complexity of Privacy, Openness and Loyalty Issues”, SIGCAS Computers &Society, 45(3), 416-419, 2015, 査読有
18. 村田潔、折戸洋子「統合失調症社会」,『日本情報経営学会第70回全国大会予稿集』, 61-64, 2015. 査読無
19. 浅井亮子、村田潔「テクノロジーによるホールディング機能の代替」,『日本情報経営

学会第70回全国大会予稿集』, 65-68, 2015, 査読無

20. Yohko Orito, Yasunori Fukuta, Kiyoshi Murata, “I Will Continue to Use This Nonetheless: Social Media Survive Users' Privacy Concerns”, International Journal of Virtual Worlds and Human Computer Interaction, 2, 92-107, 2014, 査読有
21. 村田潔、折戸洋子、八鍬幸信、上杉志朗「エドワード・スノーデン事件の社会的影響:産官複合体による監視とプライバシー」,『日本情報経営学会第69回全国大会予稿集』, 159- 162, 2014, 査読無
22. 折戸洋子、村田潔「ソーシャルメディア企業のビジネスモデルとプライバシー保護に関するユーザの意識」,『日本情報経営学会予稿集第68回予稿集』, 157-160, 2014, 査読無
23. 浅井亮子「情報倫理研究におけるジェンダーの射程」,『経営情報フォーラム(経営情報学会誌)』, 23(2), 158- 161, 2014, 査読無
24. 鈴木静「障害者福祉」,『新・初めての社会保障論』, 134- 142, 2014, 査読無
25. 鈴木静「住み続ける権利と災害時の避難支援に関する一考察」,『日本社会福祉学会第62回秋季大会報告要旨集』, 463- 464, 2014, 査読無
26. 村田潔、折戸洋子「誰がプライバシーを侵害するのか—ビッグデータ時代のプライバシー保護—」,『経営情報学会誌』, 22(4), 239-245, 2014, 査読有
27. Yohko Orito, Kiyoshi Murata “Dividualisation: Objectified and Partialised Human Beings”, Proceedings of CEPE 2014, USB memory, 2014, 査読有
28. Kiyoshi Murata and Yohko Orito”Privacy after Death”, Proceedings of ETHICOMP 2014, USB Memory ,2014, 査読有
29. Iordanis Kavathatzopoulos and Ryoko Asai “Philosophical Method and the Conflict Liberty-Security,” Proceedings of ETHICOMP 2014, USB Memory , 2014, 査読有
30. Ryoko Asai, “Social Influence on Cooperation and Coordination”, ICT- ethics: Sweden and Japan, Centre for Applied Ethics, 24- 30, 2013, 査読有
31. Ryoko Asai, “Designing " Open Education" : How does the ICT- based system function as a new medium of participation for sustainability?”, The proceedings of ETHICOMP 2013 , 33- 36 ,2013, 査読有
32. Ryoko Asai, Iordanis Kavathatzopoulos, “ICT Supported Crisis Communication and Dialog”, The Proceeding of ETHICOMP 2013, 37- 41, 2013, 査読有
33. Ryoko Asai, “Social Media Supporting Democratic Dialogue”, The Proceedings of CEPE 2013, 36-43, 2013, 査読有
34. Iordanis Kavathatzopoulos ,Ryoko Asai, “Can machines make ethical decisions? Artificial Intelligence”, Applications and Innovations: 9th IFIP WG12.5 International Conference, 412, 693- 699, 2013, 査読有
35. Iordanis Kavathatzopoulos, Ryoko Asai and Mikael Laaksoharju, “Tools and Methods for Security: Stimulating the Skill to Philosophize”, European Intelligence and Security Informatics Conference: IEEE Computer Society, 163- 165, 2013, 査読無
36. 鈴木静「岡山県備前市片上地区の挑戦、いざに備える町内会の底力—住民の不安を目に見える形に-地区診 断による全世帯アンケート(前編)」,『ゆたかなくらし』, 371号, 50-55, 2013, 査読無
37. 鈴木静「岡山県備前市片上地区の挑戦、いざに備える町内会の底力-住民の不安を目に見える形に-地区診 断による全世帯アンケート(中編)」,『ゆたかなくらし』, 372号, 51-55, 2013, 査読無
38. 鈴木静「岡山県備前市片上地区の挑戦、いざに備える町内会の底力-住民の不安を目に見える形に-地区診 断による全世帯アンケート(後編)」,『ゆたかなくらし』, 373号, 52-55, 2013, 査読無
39. 鈴木静「岡山県備前市片上地区の挑戦、いざに備える町内会の底力-住民の要望から『声かけ名簿』づくりへ (上)」,『ゆたかなくらし』, 380号, 12-16, 2013, 査読無
40. 鈴木静「岡山県備前市片上地区の挑戦、いざに備える町内会の底力-住民の要望から『声かけ名簿』づくりへ (下)」,『ゆたかなくらし』,381号,12-16, 2013,査読無
41. Kiyoshi Murata, Yohko Orito, “The Schizophrenic Society: A Possible Identity Crisis in the Participatory Surveillance Environment” ICT- ethics: Sweden and Japan, Centre for Applied Ethics, 10-23, 2013, 査読有
42. YohkoOrito, Kiyoshi.Murata and.Chung Ah Young, “e-Governance Risk in Japan: Exacerbation of Discriminative Structure Built in the Family Registration System”, Proceedings of ETHICOMP 2013, 362-370, 2013, 査読無
43. Yohko Orito, Kiyoshi.Murata and Yasunori Fukuta,“Do Online Privacy Policies and Seals Affect Corporate Trustworthiness and Reputation?”, International Review of Information Ethics, Vol.19, No.1, 52-65, 2013, 査読有
44. 村田潔、折戸洋子「ネットユーザーのオンラインプライバシー保護意識:理論と現実」,『日本情報経営学会第67回全国大会予稿集』, 65- 68, 2013, 査読無
45. 折戸洋子、守屋英一、中西晶、村田潔「日本におけるネット選挙運動解禁前夜の状況」,『日本情報経営学会第67回全国大会予稿集』, 144- 147, 2013, 査読無

46. 村田潔、折戸洋子「誰がプライバシーを侵害するのか:ビッグデータ時代のプライバシー保護」,『経営情報学会 2013年秋季全国研究発表大会』,Online paper, 2013, 査読無
47. 折戸洋子、村田潔「情報倫理研究の最前線(2)ソシアルメディアの進展とビッグデータ時代を迎えてのプライバシー」,『経営情報学会誌』, 22巻4号, 321- 324, 2013,査読無

〔学会発表〕(計 33 件)

1. 浅井亮子「個人識別番号(PIN)に付随する個人:PINが私の『アイデンティティ』になる社会」, 国民番号制度の有効性と社会的課題に関する学際的比較研究研究会, 2017年02月20日, 明治大学(東京都千代田区)
2. 鈴木靜「ノルウェーの国民番号制度について:住民サービスの関連から」, 国民番号制度の有効性と社会的課題に関する学際的比較研究研究会, 2017年02月20日, 明治大学(東京都千代田区)
3. 長井偉訓「『税と社会保障の一体改革』と世代間格差～日本におけるマイナンバー導入の意義を踏まえて」, 国民番号制度の有効性と社会的課題に関する学際的比較研究研究会, 2017年02月20日, 明治大学(東京都千代田区)
4. Ryoko Asai, "Robots as Companions in Feelings and Discussions", Dansk Filosofisk Selskabs aarsmoede(国際学会), 2017年03月03日,Aarhus (Denmark)
5. Andrew A. Adams, Kiyoshi Murata, Yasunori Fukuta, Yohko Orito and Ana Maria Lara Palma,"Would You Do What Snowden Did? An International Study of University Students' Reactions to Snowden's Actions and Revelations", 7th Biennial Surveillance & Society Conference(国際学会), 2016年04月22日, Barcelona(Spain))
6. Yohko Orito, "Despite Feeling Vaguely Uneasy:Japanese Youngsters Still to Continue to Use Social Media", 2nd International Conference on Computer, and Information Science and Technology(招待講演)(国際学会), 2016年05月11日,Ottawa (Canada))
7. Kiyoshi Murata, Andrew A. Adams, Yasunori Fukuta, Yohko Orito, Ana Maria Lara Palma, "Japanese Data Sensitivity: A Preliminary Study", 5th Asian Privacy Sholars Network (国際学会), 2016年12月13日, Auckland (New Zealand)
8. 鈴木靜「ノルウェー・ベルゲン市—「世界記憶遺産」の活用—」, 愛媛大学公開講座, 2016年07月30日, 愛媛大学(愛媛県松山市)
9. 鈴木靜「スウェーデンにおける高齢者福祉」, 愛媛県内子町・愛媛大学法文学部人文学科等講座懇話会共催プロジェクト(招待講演), 2016年02月18日, 愛媛県内子町自治センター（愛媛県喜多郡内子町）
10. 長井偉訓「統一論題『現代資本主義企業と労働時間』趣旨説明」, 労務理論学会, 2015年06月07日, 茨城大学（茨城県水戸市）
11. 村田潔、折戸洋子「参加型監視環境における人間疎外」, 日本情報経営学会関東部会,2015年06月06日, 明治大学（東京都千代田区）
12. Ryoko Asai, "How to Be Ethical", Vi2-seminar(招待講演)(国際学会), 2015年05月11日,Uppsala (Sweden)
13. Ryoko Asai, "Technology as Mask", Technology and Ethics: Sweden meets Japan(国際学会), 2015年09月02日, ,Uppsala (Sweden)
14. Ryoko Asai, "Sex and Technology: Can you have sex with robots?", Etikseminarium(招待講演), 2015年12月07日,Uppsala (Sweden)
鈴木靜「高齢者権利条約策定に向けた課題」, 愛媛県高齢者大会(招待講演), 2015年11月08日, 愛媛県四国中央市土居文化会館（愛媛県四国中央市）
15. Shizuka Suzuki, "Japan,Support Centre for Activity and Research for Old People Poverty of the current situation of older persons in Japan", Open-ended Working Group on Ageing for the purpose of strengthening the protection of the human rights of older persons, 2015年7月16日,New York, (U.S)
16. 鈴木靜「社会保障から日本国憲法を考える」, 新居浜医療生協主催学習会(招待講演), 2015年06月27日, 愛媛県新居浜市総合福祉センター（愛媛県新居浜市）
17. 鈴木靜「住み続ける権利と障害のある人の権利条約批准後の課題」, 岡山市人権講座(岡山肢体障害者の会)(招待講演), 2015年02月21日, 林病院ひまわりホール（岡山県岡山市）
18. Kiyoshi Murata, AndrewA. Adams, Yohko Orito, Yasumori Fukuta and Ana Maria Lara Palma, "Social Impacts of Snowden' s Revelations in Japan: Exploratory Research", Asian Privacy Scholars Network 4th International Conference, 2014年07月10日,Meiji University（東京都千代田区）
19. Ryoko Asai,"Emotions Online", Vi2- seminar, 2014年04月28日,Uppsala (Sweden)
20. Ryoko Asai, "Between Insanity and Love" Epistemologie Sociale, 2014年05月05日, Ecole des hautes etudes en sciences sociales, Paris (France)
21. 鈴木靜「住み続ける権利と災害時の避難支援に関する一考察」,日本社会福祉学会, 2014年10月30日,早稲田大学（東京都新宿区）
22. Yohko Orito, Yasunori Fukuta, Kiyoshi Murata,"I Will Use This, Because I Just Want

to: Social Media Users' Groundless Reliance on Social Media Companies", The 2nd International Conference on Multimedia and Human- Computer Interaction (MHCI), 2014年8月15日, Prague(Czech Republic)

23. Ryoko Asai and Iordanis Kavathatzopoulos, "Responsibility and competence in political ethics" ,23rd World Congress of Political Science 2014, 2014年07月23日, Montreal(Canada)
24. Iordanis Kavathatzopoulos, Ken Coghill, Ryoko Asai, "Supporting Politicians'skill to Handle Moral Issues" ,23rd World Congress of Political Science 2014, 2014年07月23日, Montreal(Canada)
25. Iordanis Kavathatzopoulos and Ryoko Asai, "Can machines make ethical decisions?" , Artificial Intelligence Applications and Innovations: 9th IFIP WG12.5 International Conference,2013年09月30日~2013 年10月02日,Cyprus (Greece)
26. Kiyoshi Murata, Yohko Orito, "Does Online Privacy Protection Pay?" The Third Asian Privacy Scholars Network Conference, 2013年07月08日~2013 年07月09日, Hongkong (China)
27. 鈴木静「住み続ける権利と災害時の避難支援に関する一考察-岡山県備前市片上地区における要援護者名簿 づくりの取り組みから-」, 日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第14回徳島大会, 2013年07月06日, ふれあい健康館（岡山県岡山市備前市）
28. 鈴木静「住み続ける権利と災害時の避難支援に関する一考察-岡山県備前市片上地区における要援護者名簿づくりの取 り 組 みから-」, 日本社会福祉学会第61回秋季大会, 2013年09月21日, 北星学園大学（北海道札幌市）
29. 鈴木静「ハンセン病医療政策における患者の人権」, 日本情報経営学会第67回全国大会(招待講演), 2013年09月28日, 徳山大学（山口県徳山市）
30. Yoritoshi Nagai, Backgrounds of Reform of the Social Security and Tax System and the Meaning of Introduction "my number system" in Japan, Joint Workshop2013 :Social Effect and Social Risk of National Identity Number System: Comparative Studies between Swedish PIN system and Japanese My Number system, 2013年08月25日~2013年08月26日,Uppsala(Sweden))
31. Yoritoshi Nagai, "The Present Situation and Problem of the "Youth Non-standard Employment" in Contemporary Japan", Korean Corporation Management Association, 2013年10月18日,愛媛大学（愛媛県松山市）
32. Yohko Orito, "Privacy and My Number System in Japan", Joint Workshop2013 ： Social Effect and Social Risk of National Identity Number System: Comparative Studies between Swedish PIN system and Japanese My Number system, 2013年08月25日~2013年08月26日,Uppsala(Sweden)
33. Iordanis Kavathatzopoulos ,Ryoko Asai, "Methods for IT Security and Privacy", ICT, Society and Human Beings 2013, 2013年07月24日 ~2013 年 07 月 26 日 , Prague(Czech Republic)

〔図書〕（計 2 件）

1. 崔英靖、折戸洋子、大西正志編『ここから始める経営入門』, 190頁, 2016, 晃洋書房
2. 矢嶋里絵、田中明彦、石田道彦、高田清恵、鈴木静他『人権としての社会保障-人間の尊厳と住み続ける権利』,324頁(156-165頁) ,2013, 法律文化社

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）
○取得状況（計　0 件）

〔その他〕

６．研究組織

(1)研究代表者
長井 偉訓（NAGAI Yoritoshi）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：50237492

(2)研究分担者
鈴木 静（SUZUKI Shizuka）
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号：80335885

浅井亮子（ASAI Ryoko）
明治大学・研究推進員・推進員
研究者番号：40461743

折戸洋子（ORITO Yohko）
愛媛大学・社会共創学部・准教授
研究者番号：70409423

(3)連携研究者

(4)研究協力者